

令和4年度 東三河地域産業労働会議における主な発言要旨

日 時：令和4年8月22日（月）

午後2時から午後4時まで

場 所：東三河総合庁舎 3階 301 会議室

（雇用全体について）

- ・今年度に入り、新規求人、新規求職ともに増加傾向である。労働移動が、顕著になった。
- ・労働力の確保の手段として、高齢者、障害者、外国人の雇用を検討していただくように求人者の方に提案を行っている。
- ・全体的には、人手不足感が非常に高まっている。
- ・女性、高齢者、障害者、外国人の雇用促進には、抜本的な設備投資、設備改善、環境整備が必要となるため、なかなか踏み出せないことを聞く。
- ・中小企業の経営者向けに、多様な人材の活躍と働きやすい職場づくりの促進のため「雇用定着促進啓発セミナー」を開催する。
- ・市内企業が求める人材と求職者がミスマッチしている。また、高齢者、外国人の求職者が増加している。
- ・市は担当事業が少ないので、他機関の意見を聞きながら取り組んでいきたい。
- ・例年、インテリアコースは女性が、エクステリアコースは高齢者の方が多い。就職率も高い。

（女性の雇用について）

- ・マザーズコーナーを設置し、子育て女性等に対する総合的な就職支援サービスを実施している。パートの増加で顕著なのが、45歳以上である。コロナ禍の雇用に対する影響が、特に地方の女性に大きい。
- ・コロナ第7波となり、パートで働く際のシフトに入れなくなり、自己都合で辞める方が多い。
- ・女性の就職意欲が高まる中、昨年度は、就職者の総数で僅かに女性が上回った。
- ・ライフスタイルの変化に合わせた働き方を尊重する企業が増えている。
- ・創業セミナーでは女性の割合が上回っている。テレワークなどを活用し、遠隔地でも仕事が行える環境を整えば、出産や結婚後に退職した女性の活用も増えていく。
- ・中小零細企業が多いこともあり、女性の雇用や育児休暇などが整備されていない企業もある。女性従業員向けのセミナーを開催し、女性の働きやすい環境づくりの手助けを行っている。
- ・製造業のため女性が少ないので、女性活躍の場を広げ、女性採用を増やしていきたい。女性学生を対象とした採用イベントも行っている。
- ・正規雇用を目指す際の資格取得費助成や、再就職支援のセミナー、研修、相談を行っている。
- ・「女性のための再就職セミナー」を行っている。市内で創業する方で要件を満たした場合、補助金を出す。約半数以上が女性であり、30歳から50歳位の占める割合が7割以上である。
- ・出張相談所や広報活動を行っている。

（高齢者の雇用について）

- ・職場環境改善を求めるガイドラインが示されている。65歳を超える定年延長を採用する事業者が多いと感じている。
- ・求職者は、なかなか面接に至らずに活動期間が長引いている。しかし、中小企業での就職件数が伸びている。高齢者の活用が必要だと思うので、力を入れていく。
- ・若年者の割合が減少する中、労働力確保の観点から高齢者の雇用を推進しなくてはならない。そのため、60歳、65歳以上の方が安心して応募できる求人を広げていく必要がある。
- ・定年の引き上げ、雇用延長制度により、65歳まで働ける環境が増えている。
- ・65歳以降でも社員と会社の双方が合意すれば、シニアスタッフもしくはアルバイトをしていただけの状況である。

- ・「ちょこっとサポート事業」を行っている。これは高齢者に対して、介護のサービスが及ばない日常の支援を、1時間以内1回500円でを行う事業で、シルバー人材センターに委託することで、高齢者の就業機会の拡大につなげている。

(障害者の雇用について)

- ・障害者の相談には、関連する部署にフィードバックする体制で対応している。
- ・精神障害の方も、健常者と同じように働きたい希望を持っているが定着しない。企業側もノウハウがないので、理解がなかなか得られない。
- ・ここ10年の間においても、新規求職者のうち、障害者の方の割合がかなり増加している。
- ・障害者雇用は義務化されているが、障害者の雇用をしたことがない企業は、踏み出すことが難しい。
- ・ろうあ者を雇用したが、コロナ禍でマスクを着けるため、コミュニケーションが取りづらい。
- ・精神疾患で診療中の方は、問題を隠したがりで双方の理解が上手くいかずに離職していく。
- ・障害者就労検討会があり、就労支援の活動状況を広めている。
- ・ハローワークと連携を取り、障害者対象訓練を実施している。入校者の6割が精神、発達障害の方である。そして重複障害を持った方が結構いる。年々、精神、発達障害の方が多くなっている。自分の障害を理解し、企業に伝える工夫をしている。

(外国人の雇用について)

- ・愛知県は外国人労働者が多い。在留資格の改正で更に急増している。円滑な安全教育ができるような視聴覚教材を作成し、幅広い業種向けに提供している。
- ・正規雇用など安定した就労よりも、水準が高い非正規の派遣労働を望む外国人が少なくないのが現状。当所には外国人職業相談センターがある。日本語学力に加え、面接やビジネスマナーの講座実施を検討している。
- ・従業員規模が少ない企業では二の足を踏んでいる。
- ・外国人の社会生活（プライベート）に会社がどこまでフォローしてよいのかが分からない。行政への支援を求める声を聞く。
- ・蒲郡は水産加工、製造、繊維業に外国人労働者が多い。産業が発達するように施策を行ってきたい。
- ・定着が難しい。外国人の雇用には課題が多く、企業も二の足を踏む。
- ・製造業は賃金で西三河とは大きな差がある。東三河ではなかなか集まらない。横のネットワークが非常に強いので、条件が良い方に行ってしまう。
- ・「就労のための日本語学習等支援事業」において、ビジネスマナー学習なども実施している。
- ・定住外国人を対象とした訓練を開講した。